

—コヘレト1章・2、2・21-23、コロサイ3章1-5、9-11、ルカ12章・13-21—

〔そのとき、〕群衆の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」イエスはその人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」そして、一同に言われた。(中略)一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、やがて言った。『どうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しむ」と。』しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。—ルカ 12章—

上にあるもの

ある日の新聞に掲載された、女子学生の人生相談です。

「中一の夏ごろから、自分はいつか死んで、この世から消えてしまおうんだということを意識するようになってきました。それから、どんなに面白いことや嬉しいことがあっても、その考えが頭の片隅で邪魔をします。」

そんなことを悩んでもしょうがない、今は生きているんだから今を精一杯楽しめばいいんだと何度も自分に言い聞かせるのですが、どうしても心からそう思うことが出来ず、怖くて不安な気持ちから脱け出せません。人が歳をとって死ぬことは避けられないのだから、恐れるのではなく、受け入れられるようになっていきたいのですが、それは難しいことでしょうか？」

コヘレトは、かつて栄華を極めたソロモンの口を借りて語ります。神を知らず、神を信じないで、世の富を支えにして生きた者の空しさを。

いかに栄華を極めても、死で終わる人生。まるで死刑の宣告を受けて生まれ落ちてくるようなこの不可解な人生に神を信じない者に何の意味があるのか？と。

しかし、信じる者には、キリストがその意味を私たちに教えて希望を与えてくださっています。

人の命は財産によってどうすることも出来ません。命は神の手の中に置かれていくのですから、神の前に豊かな人になるように、キリストは、地上で終わる私たちの命を、神が「永遠の命」に変えて完成してくださる「その道」を私たちに教えるためにこの世に生まれ、死んで復活の世界が待つ

ていることを示してくださった唯一の神ご自身です。それ故、被造物である私たちは、「真の知識」であるキリストの道に心して生きるのです。

みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望、貪欲、人間の教えに過ぎない空しい地上のものに心惹かれることなく、神を恐れ、その戒めを守って、神の前に豊かな者となるように。

2022年7月31日

主任司祭 昌川信雄

